

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2013～2015

課題番号：25257010

研究課題名(和文) 検証アンコール・ワットへの道

研究課題名(英文) Integrated Studies on a Historical Network with Angkor Watw

研究代表者

石澤 良昭 (Ishizawa, Yoshiaki)

上智大学・アジア人材養成研究センター・教授

研究者番号：10124851

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 19,900,000円

研究成果の概要(和文)：アンコール王朝期に完成をみた東南アジア大陸部のネットワークを、史料(碑文)・考古資料・図像・建築様式や技術に基づき、アンコール王朝の中央と周縁の関係性を分析した。具体的な調査対象遺跡はアンコール王朝を起点とした場合の西限にあたるムアン・シン遺跡Muang Singh(タイ)、北東限のワット・プー遺跡Wat Phu(ラオス)、そして南東のバヤン遺跡Bayan(カンボジア)である。碑文によって寄進と下賜の関係がより具体的に明らかになり、踏査によって現実的に可能な経路を提案できた。それらに加え現存する儀礼や伝承の収集と分析から、文化圏の認識に関わる領域・境界性を検証するための材料を得ることが出来た。

研究成果の概要(英文)：This study cleared that the details of a historical network under Angkor dynasty based on interdisciplinary study of inscriptions, archaeological features, iconographical artefacts, and architectural remains. To complete a purpose of study, it focused following three historical sites: Muang Singh(Thai), Wat Phu (Laos), and Phnom Bayan(Cambodia). At first, inscriptions found from each monument, show mutual relationships between central part of Angkor and its peripheral area in terms of both of politics and religious. In addition, research collected a plenty number of current rituals and oral traditions concerning with an ancient royal prerogative to understand a territory and a border.

研究分野：歴史学

キーワード：東洋史 ネットワーク論 碑文 考古学 建築学 口頭伝承

1. 研究開始当初の背景

本研究を実施するに至った背景として、2001年から研究代表者が取り組んできた次の研究プロジェクトがある。

【アンコール5大遺跡研究】

古代ネットワークによって展開したと考えられるアンコール王朝の5大遺跡：ベン・メリア Beng Mealea、コー・ケー Koh Ker、大プレア・カーン Preah Khan、ソンボ・プレイ・クック Sambor Prei Kuk、バンテアイ・チュマル Banteay Chhmar について、当該遺跡から出土した碑文、もしくは遺跡に言及する碑文を収集し、史料に基づき往時のネットワークや歴史的景観を復元してきた。また、カンボジア国内にあるこれら5つの遺跡へのアクセスは2001年時点では道路が整備されておらず樹木の繁茂が激しかったが、かえってそのような環境は古代遺構を観察するには好条件を備えていたといえよう。更に都市と隔絶された地域であったがゆえに、当該地域の住民たちが多くの特徴的な伝統行事や儀礼、また伝承などを継承していることを理解するに至った。

2. 研究の目的

アンコール都城と周縁(遠隔地域)との関係を実証的に検証し、往時の歴史的景観を復元する。また、中心と周縁のネットワーク展開や文化圏の境界性について明らかにする。

(1) 碑文情報の検証

碑文発見地の寺院遺跡を踏査し、碑文(拓本)に掲載された全記録を遺跡現場の地理情報と照合し、古生活環境の復元に挑戦する。

(2) 3か所の遺跡を重点的に調査

次の遺跡を特に重点調査・研究対象とする：ムアン・シン Muang Singh (タイ：アンコール都城から西へ約530キロ、碑文 K908 出土)、ワット・プー Wat Phu (ラオス：アンコール都城から北東約280キロ、碑文 K307 出土)、バヤン Phnom Bayan (カンボジア：アンコール都城から南東へ約400キロ、碑文 K849-854, 858-865)

(3) 古代ネットワークの検証

実際の構築物としての「道」の他、権力が及ぶ範囲、もしくは文化を同一にする圏内・圏外という境界性を明らかにする。そのために、現代の当該地域に残る伝統、儀礼、慣習や口頭伝承を収集し分析する。

3. 研究の方法

アンコール都城と周縁(遠隔地域)との関係を実証的に検証し、往時の歴史的景観を復元する為、重点調査対象遺跡を設定し、現地調査を実施する。史料(碑文)、考古資料、建築様式及び技術等が分析材料である。また、中心と周縁のネットワーク展開や文化圏の境界に関わる議論を展開させる為、伝統、儀礼や口頭伝承を収集する。

(1) ムアン・シン遺跡

アンコール都城から1191年に仏像の奉納

があり、陸路ムアン・シンへ到達したとみられる。経路は13世紀前半までアコール王朝側の要衝であったロップリ、さらに西へ進みカンチャナブリからムアン・シンに至ったと推測される。アンコール都城からダンレーク山脈以西は古代インフラを示す遺構は発見されておらず、ネットワーク検証のためには考古学的資料や、寺院建築様式もしくはその建築技術に注目する必要がある。一方で文化人類学的手法により、各地域における現存する伝統、慣習、儀礼、そして伝承等を収集し分析を経て、古代ネットワークとの関係を検証する一材料とする。

(2) ワット・プー遺跡

アンコール王朝発祥の地であるラオス南部のワット・プーは、コー・ケー遺跡経由で歴代の王達から莫大な寄進品が届けられていたことが碑文から類推される。碑文(K.307)では、リンガパルヴァタ(山=現在の呼称プー・カオ：標高1480m)は崇拜の対象と言及する。寄進品(森林産物：沈香や香辛料)のほか、アンコールの王はワット・プー寺院内の整備や小祠堂を奉納していたようだが、それらは賦役でまかない免税の対象であった。このような碑文に基づくワット・プーとアンコール都城との相関関係を、考古学的資料や、寺院建築様式もしくは建築技術に注目して、あらためて実証的にその歴史的景観を復元する。

(3) バヤン遺跡

現在のカンボジア・ベトナム国境近くに位置するバヤン遺跡は標高80mほどの独立丘上に造営された寺院建築で、メコン川下流メコンデルタの陸側北西限界に当たる。バヤンより南側には先アンコールの扶南期に該当する洞穴内遺跡が多く残る。先アンコールからアンコールにかけての歴史的展開が検証できる遺跡である。

4. 研究成果

最終的な研究成果は、現在成果論文集を編集(2016年7月末刊行予定)である。成果の概要は次の通りである。

【実施した調査と成果の経過(概要)】

平成25年度：ムアン・シン遺跡踏査

アンコール都城から出発し、陸路西側へ古代道に伴う付属施設の遺構(橋脚、街道沿いの宿駅や施療院)を検証した。スドック・カク・トム Sdok Kuk Tom (タイ)以西は上述のような遺構の残存を検証するのは困難であり、専ら考古資料、彫像様式、及び寺院建築の建築様式や技術の観察をおこない、ムアン・シン遺跡にて調査を実施した。

平成26年度：バヤン遺跡踏査

アンコール都城から出発し、陸路南東へ進み、先アンコール期のアンコール・ボレイ Angkor Borei 遺跡の踏査と遺物調査を経てバヤン遺跡へ至った。バヤン遺跡以南のケップ及びカンポト州(カンボジア)には先アンコール期の洞穴遺跡が多く残る。洞穴内に構

築されたレンガ祠堂には自然石を利用したリングが祀られており、土着の山岳信仰と外来のシヴァ・リング信仰の融合を観察した。バヤン遺跡及び近隣集落では住民からの伝承聞き取り調査を実施し、古代王権に連なる山（バヤン山）の由来に関する伝承が残っていることを確認した。

平成 27 年度：ワット・プー遺跡踏査

アンコール都城から出発し、コー・ケー遺跡及びプレア・ヴィヒア州を經由してワット・プーへ進む古代道沿いを調査した。ドンレーク山脈を越えた北側（ラオス）には多くのアンコール期の寺院建築が残る。遺跡内には碑文を刻む開口部側石があり、先行研究による解釈を再検討するため（許可を得て）写真撮影と拓本採取を実施した。また、当該地域にはクメール語話者である「クメール」の人々が多く住み、アンコールの王との関係を類推させる伝承を聞き取ることが出来た。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 12 件)

石澤良昭「ヨゼフ・ピタウ先生とアジア人材養成研究センター - グラウンド・レイアウト第 1 号、アジアへ出かけてソフィア・ミッション」(査読無)『アンコール遺跡を科学する』上智大学アジア人材養成研究センター、2016、11 - 28 頁。

丸井雅子「カンボジアの戦争遺跡とその活用」(査読無)『季刊考古学別冊 特集：アジアの戦争遺跡とその活用』23 巻、2015、雄山閣、132 - 136 頁。

石澤良昭「序 アンコール・ワット研究と三つの願い」(査読有)『佛教藝術』337 巻、2014、9 - 10 頁。

石澤良昭「西欧来航者が語る「ポスト・アンコール史 (15 - 19 世紀)」 - 歴史仮設の構築作業から - 」(査読有)『佛教藝術』337 巻、2014、11 - 35 頁。

松浦史明「アンコール時代の彫像に見る人と神 - 刻文史料の検討から - 」(査読有)『佛教藝術』337 巻、2014、36 - 55 頁。

田畑幸嗣「アンコール朝の交易と産業 - 陶磁器研究の視点から - 」(査読有)『佛教藝術』337 巻、2014、100 - 122 頁。

丸井雅子「世界の中の日本人考古学者 - 東南アジアのフィールドから - 」(査読無)『考古学研究』61 - 3 号、2014、29 - 37 頁。

丸井雅子「海外の調査・保存と日本の考古学」(査読有)『考古学研究会 60 周年記念誌：考古学研究 60 の論点』2014、263 - 264 頁。

ISHIZAWA, Yoshiaki “Learning Cambodian Wisdom” (査読無)『カンボジアの文化復興』28 号、2014、143 - 147 頁。

丸井雅子、田畑幸嗣、Phan Nady、Ek Buntha 「カンボジアにおける水中文化遺産保護事情 - コッ・コン沖沈没船引き揚げ資料調

査速報 - 」(査読有)『日本考古学協会第 79 回総会研究発表要旨』79 巻、2013、92 - 93 頁。

丸井雅子、田畑幸嗣、Phan Nady、Ek Buntha 「カンボジアにおける水中考古学：コッ・スダイツ（コッ・コン州）沖引き揚げ資料」(査読無)『東南アジア考古学』33 号、2013、62 - 67 頁。

丸井雅子「外交戦略としての文化遺産保護 - カンボジアにおける水中文化遺産保護条約を事例として - 」(査読有)『上智大学外国語学部紀要』48 号、2013、139 - 151。

〔学会発表〕(計 7 件)

MARUI, Masako/ NHIM Sotheavin/ PHIN Phakdey, co-convenors, panel 15 “Archaeology Education” for the 2nd SEAMEO-SPAFA International Conference on Southeast Asian Archaeology, 30 May - 1 June 2016, Bangkok, Thailand. (SEAMEO-SPAFA 主催第 2 回東南アジア考古学国際会議にて「考古学教育」をテーマとしたパネルをコンピーナーとして立ち上げた。合計 12 名が報告したパネルにおいて丸井は趣旨説明とパネル運営を担当し、ニムは「カンボジアにおける考古学教育」、ピンは「アンコール遺跡の歴史と価値をめぐる無形文化遺産の文化人類学的考察」を発表した)

MARUI, Masako “The Cultural Heritage Education Program of the Sophia Asia Center for Research and Human Development” for the preliminary session, International Coordinating Committee for Preservation of Angkor, 3 December 2015, Siem Reap, Cambodia. (アンコール遺跡国際調整会議にて丸井が「文化遺産教育活動の実践について」を発表した)

丸井雅子「カンボジアの戦争遺跡とその活用」東南アジア考古学会 2015 年度研究大会「アジアの戦争遺跡とその活用」2015 年 11 月 1 日、昭和女子大学（東京）。

MARUI, Masako “Cultural Heritage and Community Coexisting: a case study in Banteay Kdei” 20 August 2015, International Lecture Series, APSARA Authority, Siem Reap, Cambodia.

丸井雅子「世界の中の日本人考古学者 - 東南アジアのフィールドから - 」考古学研究会 2014 年度研究大会「世界の中の日本考古学」2014 年 4 月 20 日、岡山大学（岡山）。

丸井雅子「ミャンマー・エーヤーワディー流域の軒先瓦」東南アジア考古学会 2013 年度研究大会個人研究発表、2013 年 11 月 16 日、昭和女子大学（東京）。

丸井雅子、田畑幸嗣、Phan Nady、Ek Buntha 「カンボジアにおける水中文化遺産保護事情 - コッ・コン沖沈没船引き揚げ資料調査速報 - 」日本考古学協会第 79 回総会研究発表 2013 年 5 月 26 日、駒澤大学（東京）。

〔図書〕(計3件)

石澤良昭編『検証 アンコール・ワットへの道：アンコール都城と周縁地域の歴史的景観の再構築にむけて』(本科学研究成果報告書)2016年7月末刊行予定(執筆：石澤良昭、丸井雅子、シリル・ヴェリヤト、田畑幸嗣、三輪悟、松浦史明、佐藤恵子、ニム・ソティープン、ピン・パクダイ)

ISHIZAWA, Yoshiaki *Activities for Exchanges in International Cooperation for the Conservation of Cultural Heritage within the Five Nations of Southeast Asia*, 2016, Sophia University, 267pages.

石澤良昭、三輪悟共著『カンボジア 密林の五大遺跡』2014、連合出版、270頁。

石澤良昭『新・古代カンボジア史研究』2013、風響社、766頁。

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

〔その他〕

アウトリーチ活動(計18件)

(1)講座(計7件)

名称：日本オープンオンライン教育推進協議会 JMOOC オンライン講座「アンコール・ワット研究 - 『人間』を考える総合学問としての新地平 - 」の作成(全44回)

講師：石澤良昭、丸井雅子、三輪悟、ニム・ソティープン、久保真紀子

時期：2016年9月1日開講(予定)

公開場所：JMOOC 公認配信プラットフォーム

https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+ga067+2016_09/about

名称：上智大学公開講座「アンコール王朝版図内の交易活動と宗教活動」(全5回)

講師：石澤良昭、三輪悟、松浦史明、久保真紀子、宮崎晶子

期間：2016年5月25日 - 6月22日

名称：上智大学公開講座「アンコール王朝はアジア最後の大帝国か」(全4回)

講師：石澤良昭、丸井雅子、小島陽子、三輪悟

時期：2016年4月20日 - 5月18日

名称：上智大学公開講座「時代を映す鏡としてのアンコール・ワット大伽藍」

講師：石澤良昭、佐藤恵子、松浦史明

時期：2015年9月30日 - 11月4日

名称：上智大学公開講座「ベンガル湾と南シナ海を結ぶアンコール王朝(9世紀 - 15世紀)新歴史発見報告

講師：石澤良昭、丸井雅子、三輪悟、松浦史明、佐藤恵子、宮崎晶子

時期：2015年4月21日 - 6月2日

名称：上智大学公開講座「カンボジア 密林に埋もれた五大遺跡」

講師：石澤良昭、丸井雅子、三輪悟、佐藤恵子

時期：2014年10月7日 - 11月11日

名称：上智大学公開講座「アンコール・ワットの新歴史発見物語」

講師：石澤良昭、丸井雅子、三輪悟、小島陽子、平野裕子

時期：2014年4月22日 - 6月10日

(2)科学研究会(計10件)

名称：科研『検証アンコール・ワットへの道』公開研究会

主催：上智大学アジア人材養成研究センター
会場：上智大学四ツ谷キャンパス

第10回(2015年11月20日18:30 - 20:00)
久保真紀子「クメール寺院建築の尊像配置 - プリア・カーン寺院のリンテルに表現された禅定印仏像 - 」

第9回(2015年9月25日18:00 - 20:00)
高橋宏明「第二次世界大戦期のカンボジアと日本」

第8回(2015年1月22日18:30 - 20:00)
朝日由実子「カンボジアにおける絹織物業と民族性」

第7回(2014年10月24日18:00 - 20:00)
佐藤恵子「アンコール王朝における王権とバライ造営の関係」

第6回(2014年7月16日18:00 - 19:30)
松浦史明「周達観の来た道 - アンコール南部の歴史と水上交通」

第5回(2014年5月19日17:00 - 18:30)
三輪悟「カンボジアの伝統木造民家 - モンドルキリ州、クラチェ州の調査から - 」

第4回(2014年1月23日17:00 - 18:00)
丸井雅子「古代カンボジアの鎮壇具について」

第3回(2013年11月25日18:00 - 19:00)
田畑幸嗣「アンコール遺跡における発掘調査成果と出土貿易陶磁器」

第2回(2013年10月25日17:00 - 18:00)
ロス・ボラット(アプサラ機構)「アンコール遺跡における保存整備計画」、マオ・ロア(アプサラ機構)「アンコール遺跡と寺院発掘について」

第1回(2013年7月17日17:00 - 18:00)
石澤良昭「Pax Angkoriana(アンコールの平和)と寺院の建設」

(3)その他(計1件)

上智大学オープンリサーチウィーク(2015年11月)丸井雅子、磯崎博司「水申文化遺産条約の現状と課題：カンボジアを事例として」(ポスター発表)上智大学研究機構、上智大学(東京)。

東南アジア考古学会例会(2015年10月14日)丸井雅子、ニム・ソティープン、ピン・パクダイ「ワークショップ 地域史としての遺跡保存活動：世界遺産アンコールにおける試み」上智大学(東京)。

6. 研究組織

(1)研究代表者

石澤 良昭 (ISHIZAWA, Yoshiaki)
上智大学・アジア人材養成研究センター・
教授
研究者番号：10124851

(2)研究分担者

丸井 雅子 (MARUI, Masako)
上智大学・総合グローバル学部・教授
研究者番号：90365693

シリル・ヴェリヤト (VELIATH, Cyril)
上智大学・総合グローバル学部・教授
研究者番号：10216202

田畑 幸嗣 (TABATA, Yukitsugu)
早稲田大学・文学学術院・准教授
研究者番号：60513546

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

三輪 悟 (MIWA, Satoru)
上智大学・アジア文化研究所・共同研究員

ニム・ソティープン (NHIM Sotheavin)
上智大学・アジア文化研究所・客員研究所
員

松浦 史明 (MATSUURA, Fumiaki)
上智大学・アジア文化研究所・客員研究所
員

佐藤 恵子 (SATO, Keiko)
上智大学・アジア文化研究所・客員研究所
員

ピン・パクダイ (PHIN Phakdey)
上智大学・大学院グローバルスタディーズ
研究科地域研究専攻・院生